
双銃の異世界人

雨流 光希

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

双銃の異世界人

【Nコード】

N4703Z

【作者名】

雨流 光希

【あらすじ】

両親^{おり}が居ないながらも、平凡な生活を送っていた高校一年生、式^{しき}織^{おり}月斗^{つきと}

彼の生活は、一通の送信者不明のメールにより大きくその人生を変えられた。

良い意味でも悪い意味でも大きく。

序章・きっかけ

スマートフォンを操作しながら帰路につく。季節は冬。まだ午後六時前なのに、辺りはすっかり暗くなっていた。

（少し図書室でゆっくりしすぎたかな。でもあの小説は面白かったな）

そんな事を考えつつ彼、式織 月斗は少しだけ歩調を早めた。制服の上にダッフルコートを着ているとは、さすがに寒い。ぶるぶる。

短く震えスマートフォンが手の中でメールが来た事知らせる。

（ん？なんだこれは）

メールには送信者のアドレスがなかった。

本文だけの簡素なメール。そこにはこう書かれていた。

『このメッセージを受け取ったあなたにお願いがあります。

私達を助けて。聞き届けてくれるなら、この言葉を唱えてください。

ゲートオープン』

悪戯にしても凝ってるな。最初に抱いた感想はそんなもんだった。

ただアドレス無しでメールが着たことに戸惑った。もし本当に助けを求められていても、連絡の取り様がない。

本当に信じていたわけではないが、先程読んでいたファンタジー小説の影響もあるだろう。歩く足を止め、月斗は声に出してみた。

「ゲートオープン」

冷たい風が顔を撫でた。目で見た限り周りの景色に変化はない。

（やっぱり悪戯だったのか、なんと手の混んだ）

そう思い再び歩き始めようとした所で、世界は変わった。周りの景色が月斗を中心に回り出す。次第に回転の激しさを増し、狭まって行く。

「まてまて、現実的に考えてありえないだろ！なんだよ。これ？」
あまりの事に戸惑い、答えが返ってくるはずもない問いを口に出す。
その間も回る景色は狭まり続け、あと数センチで接触するという所
で月斗は意識を失った。

ファンタジー世界

「ね・・・ねーいき・・・」
身体を揺さぶられる感覚と共に頭の上から、声を掛けられているようだ。

どうやら意識を失ってしまったらしい。月斗は軽い頭痛に顔をしかめながら、目を開けた。

「ねーってば、生きてるの？」

「ああ、大丈夫だ」

まだぼんやりとしか見えないが、相手は少女のようだ。反応があった事に安心したのか、その子は近くにあった椅子に腰かける。

「よかった。せつかく呼んだのに動かないんだもん。失敗したのかと思っで心配したわ。身体は動く？」

頭痛も消え、視力も戻ったようなので、月斗は立ち上がる。目の前にいた子はとつもない美人だった。背中の中ほどまで伸びた水色のロングヘアに、同色の快活そうな瞳。胸は控えめだが、スレンダーなスタイルは、異性、同性共に惹きつけるオーラが漂っている。見た目には同年代に見えるが、フリフリしたロリータファッションの為、年下にも見える。辺りを見回すと豪華な家具の置かれたレンガ作りの部屋だった。

「身体は平気だけど、呼んだって？学校の近くに居たはずだけど？一瞬、目を奪われてしまったが、月斗は少女に疑問を問う。

「あら？メッセーじにあったはずだけど？助けてくださいって。一応説明しておくけど、ここはヴィラルよ。貴方は私のメッセーじに答えたから、ここに来たってわけ」

少女は薄く笑う。妖艶な笑みだが、服のせいで少女には似合わない。

「はっ？あれはマジだったって事か！夢なら冷める起きるんだ俺！少女に言われた事を急には信じられず、取り乱す月斗。

「これで信じられる？」

少女は右手をグーにした後、人差し指を伸ばす。

「なっ」

月斗は驚愕の表情を浮かべる。

少女の人差し指の先には、水が球体になり浮いている。

「信じて貰えたかしら？そろそろお互い自己紹介しましょう。私はアリス・L・レリスティア。レリスティア皇国第三皇女よ。よろしくね」

少女改めアリスは水球を消し、右手を差し出す。

「式織 月斗」

いろいろあつて頭のキャパシティがパンク気味な月斗は、そういつて手を握るのが精一杯だった。

ファンタジー世界2

「来てくれてありがとう。感謝するわ」

見るものを魅了する笑顔でアリスは礼を述べる。

「いや、一つ学んだよ」

ふーとため息をついた後のように見える顔で月斗は頭を掻くそぶりをみせた。

「なにをかしら？」

「世の中には理解できない現象があるってことをさ」

「そんなの当たり前じゃないの、だから世界は面白いのよ？」

アリスはクスクスと今にも笑いだしそうな笑みを浮かべる。

「世界は面白いか・・・ま、つまらないよりかはマシか」

ダッフルコートのポケットに手をつっこみ月斗も笑みを浮かべる。

アリスの視線が月斗の全身を見るように動く。

「もう体調にも問題ないみたいだから、本題に入るわね。とりあえずそこに座ってくれる？」

アリスに言われ、月斗も椅子に腰掛ける。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4703z/>

双銃の異世界人

2011年12月16日00時55分発行